

復興将来像

活力あふれる津久見

体操教室の開催などによる健康増進の向上や区長、民生委員のほか、事業所の協力によって、地域の見守り体制の構築を図ります。



避難訓練

防災訓練の充実や防災意識向上の取り組み、避難要配慮者の個別支援計画の策定を進め、地域の防災力強化を支援します。



津久見市の防災士のみなさん



つくみん健康体操

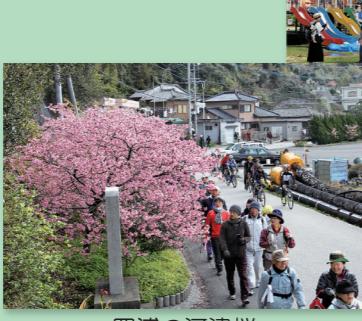


災害図上訓練

「津久見市観光戦略」の施策に基づき、街なかのにぎわいを創出し、新たな観光体験プログラムを造成します。



つくみイルカ島



四浦の河津桜

「地域おこし協力隊」を中心に、地域の課題解決と魅力発信に向けた取り組みによる地域コミュニティの活性化を図るとともに、健康づくりや生きがいづくり、出産・子育てに関する支援、学校教育の充実などを、より一層推進します。



国民文化祭へ向けて



つくみんウォーターパーク

～「活力あふれる津久見」の創造～

市内中心部の活性化について、各分野の専門家から活発な意見をいただき、観光戦略と連動した取り組みを進めていきます。



復興まちづくりイベント

防災・復興講演会の開催について

平成29年台風第18号災害から1年を迎え、下記のとおり講演会を開催します。
入場は無料です。市民の皆様のご来場をお待ちしております。

- 日 時 平成30年9月29日(土) 15時00分～17時30分
- 会 場 津久見市民会館 大ホール
- 内 容 ①復旧・復興に向けての取り組みの報告(市職員説明)
②【防災講演】演題『今後のあるべき防災・減災とは? ~災害多発時代に生きる~』
講師 小林祐司 教授(大分大学減災・復興デザイン教育研究センター次長)
- 問い合わせ先 総務課 ☎ 82-4115



小林 祐司 教授

(現在、津久見市地域防災力向上支援事業
の支援アドバイザーとしても活躍中)

平成29年台風第18号災害から1年 ～これからの津久見市の復興に向けて～

もうすぐ、昨年の台風第18号から1年が経とうとしています。あの災害では、津久見市がいまだかつて経験したことのない甚大な被害を受け、河川の氾濫や土砂崩れなどで、約2,000棟近い家屋が浸水被害等に遭いました。

また、道路も寸断され、孤立した地域も発生し、街中には、がれき混じりの汚泥があふれ出し、水道も断水するなど、未曾有の被害をもたらしました。いまなお、住宅の再建や道路や河川の復旧作業を進めているところです。

今月号では、災害発生から1年が経ち、この間の復旧状況を写真で振り返るとともに、6月に策定した「津久見市復旧・復興計画」の取り組みなどをもとに、これからの津久見市の復興に向けての状況をお伝えします。

津久見川水系の河川について、「津久見川・彦の内川河川激甚災害対策特別緊急事業」による河川改修工事を実施します。

▼楠屋地区
(平成30年
8月撮影)



▲津久見川(宮本)
(平成30年
8月撮影)

土砂災害防止などのため、緊急治山事業や緊急砂防事業、緊急急傾斜地崩壊対策事業に着手します。

▼大元地区の土砂崩れ
(平成30年8月撮影)



◀市道大岩本線(千怒)
(平成30年8月撮影)



▲二中裏(井無田)
(平成30年8月撮影)

◀道籠橋(川上)

崩れた道路の早期復旧や災害に強い橋りょうの架け替えを行います。



津久見市社会福祉協議会
野中 聖子さん



災害の経験を生かして～地域の声～

9月17日午後2時頃、徳浦川が氾濫しました。区内に「2時間は家から出ないように」という指示を出し、犠牲者を出すこともありませんでした。被災後、NPO等のボランティア、地元企業、区民、延べ750人で復旧作業を行いました。

この台風第18号災害を教訓として、今後、避難所ごとの自主防災会を強化し、高齢者等には「早めの避難」を呼びかけ、「災害の恐ろしさ」を地区民に周知していくたいと考えています。

徳浦区長
織田 敦任さん

